＜NPO 法人ベイプラン・アソシエイツ＞ 【事業提案型】

船橋港を中心とする水上交通「FunabaSea Bus」の実現に向けて

取材日；平成２２年（２０１０年）１１月２０日

【活動目的】

ＮＰＯ法人ベイプラン・アソシエイツ（ＢＰＡ）は、東京湾の有するかけがえのない自然と天然資源を多くの人々に周知してもらうため、産業の進展によって疲弊した湾の状況を改善し、次の世代に引き継ぐ活動を目的に平成１１年７月に設立された団体である。この間、三番瀬の清掃活動、船橋漁港周辺の美化運動、東京湾のサンセットクルージング等様々な活動を行ってきている。

【支援金事業】（支援対象経費総額 887,135 円　支援確定額 443,568 円　支援率 50%）

今回の支援金事業は、船橋市街地の慢性的な交通渋滞が今後ともますます状況が厳しくなることが予測されていることから、海老川の南北軸を活かして、内陸部（海老川橋付近）と港湾部を結ぶ Sea Bus の渡船事業によって、渋滞解消の解決を図るともにＣＯ２排出の抑制を目指す、新たな水上バスの運航を行うものである。

この事業の実現によって、新たな観光・レジャースポットの発掘、進展の可能性を模索し、環境に優しい船橋の魅力的なまちづくりのきっかけづくりに積極的に寄与したいとしている。加えて、市民の船橋の川と海に関する水上からの学習や、環境保全に向けた市民意識の高揚、船橋に相応しい都市観光の創出にも資するものを目指しているものである。

【アクセス渡船の実証実験に試乗】

船橋港の水辺を結ぶ新海上交通システムの実証実験は、平成２２年７月より１２月まで原則月２日、土・日曜日を利用した運航を重ねてきている。３トン弱の海苔漁船を改造した１トン程度の船を活用し、定員１１名でアクセス渡船を行っている。

実験運航コースは、京成線「大神宮下」駅直近の八千代橋の袂から出航し、船橋漁港～ららぽーと前～貝殻島（通称）～三番瀬付近を折り返し、高瀬港内に係留中の元南極観測船「しらせ」を海側から眺めた後、出発点の八千代橋まで戻る約４km となっている。

試乗当日は天気も良く、風もない絶好のクルージング日和であり、船長の解説を聞きながらの約４５分間の船旅はあっという間に過ぎてしまった感がある。船から見る船橋港、海上から眺める「しらせ」の船姿は圧巻であった。その中でも一際印象的だったのは、貝殻等への上陸であった。同島はアサリ等の貝殻の死骸が自然と堆積したものであるが、面積はあの沖ノ鳥島を凌ぐものがあり、三番瀬の近くにそのような島があることさえ知らなかった者にとっては、ただただ自然の摂理の大きさに愕然とするとともに、貴重な自然をもう少しＰＲしてもよいのではという気持ちを抱かせたのである。

市街地河口部から乗船

貝殻島上陸（沖の鳥島より大きい！）

巡航速度は一番速いところで毎時１５ノット(約２７㎞)程度出ているとのことであったが、定員一杯の乗船にも関わらず、海の穏やかもあって非常に安定した走行であった。
代表の大野理事長は、課題は多々あるが「ららぽーと」と「その対岸」を結ぶ渡船事業も併せて実現できれば、今回実験を重ねている海老川を活かした南北軸の新交通サービスとともに市民の利便性は遙かに向上するはずだと熱く語っておられた。ただ、そのためには乗船・下船が出来る桟橋が必須となるが、設置費用等が相当掛かり自助努力だけでは困難とのことであった。「海からアプローチする船橋の観光資源開発に大いなる関心を持っているが、建物など海辺の施設が海に対して背を向けているのは残念である！」との一言が、海辺のまちづくりの難しさを象徴しているようで、とても印象に残ったものがある。
本事業には日大理工学部海洋建築工学科の学生たちに協力・助言を得ながら、必要となる桟橋の設置を目指しているが、試乗当日も現地でＶＴＲ撮影やアンケート実施などを行なっていた。

元南極観測船しらせを見て

【事業に期待される効果】

海老川の南北軸を活かした水上バスを運航することで、市内の深刻な交通渋滞の緩和とＣＯ２排出の抑制を図るとともに、船橋に係留されている元南極観測船「しらせ」や他団体のイベントなどと合わせて、近隣都市には見られない観光・レジャー面や水辺の癒しスポット整備など、船橋の魅力づくりや自然環境学習の場の創出効果が期待されている。
平成２３年１月～２月頃までにこれまでの実証実験・イベント運航事業のアンケート、成果等の検証を行って、次年度以降の事業などの具体策を検討していく予定である。

【取材を終えて】

実証運航船に乗り、八千代橋からの所定のコースを体験させてもらったが、船橋港は陸上からの普段の眺めとは異なり、すごく大きく感じられ、船橋南部のまさに入口というか玄関のような佇まいであった。また三番瀬の海底（水深１．５ｍ）が本当に透きとおって見えた感激は、大変印象的であった。試乗を通じて、ふるさと船橋の水辺の貴重な資源や自然環境保護の大切さを再認識するとともに、船橋発のブランディングとしての船橋港の役割の大きさを改めて実感した次第である。
本事業が本格的に展開するまでには未だまだ高いハードルが山積しているが、関係者の皆さんの熱い想いには感動を覚えた。

関わり先(連絡担当者)
ＮＰＯ法人ベイプラン・アソシエイツ
事務局　宜野座 真子（ぎのざ　ちかこ）
℡：０４７－４３１－５８３０